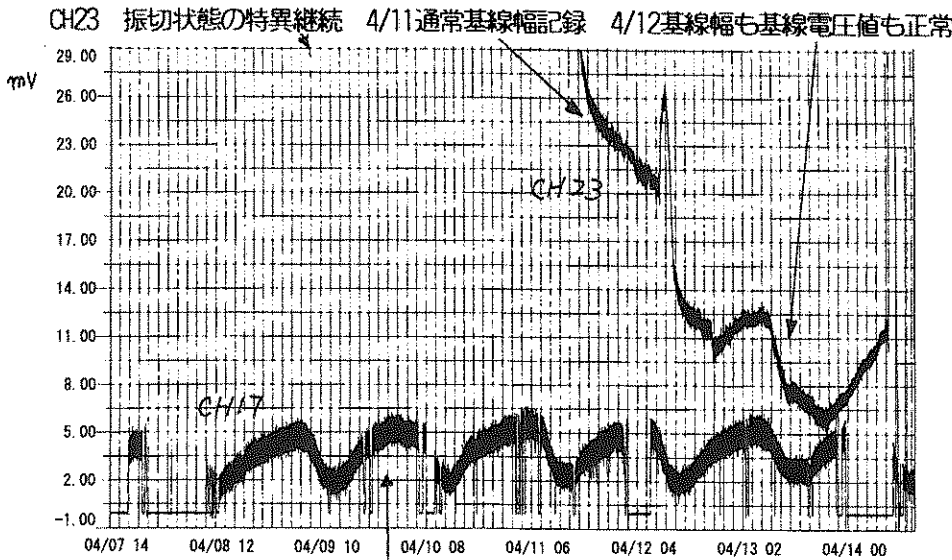


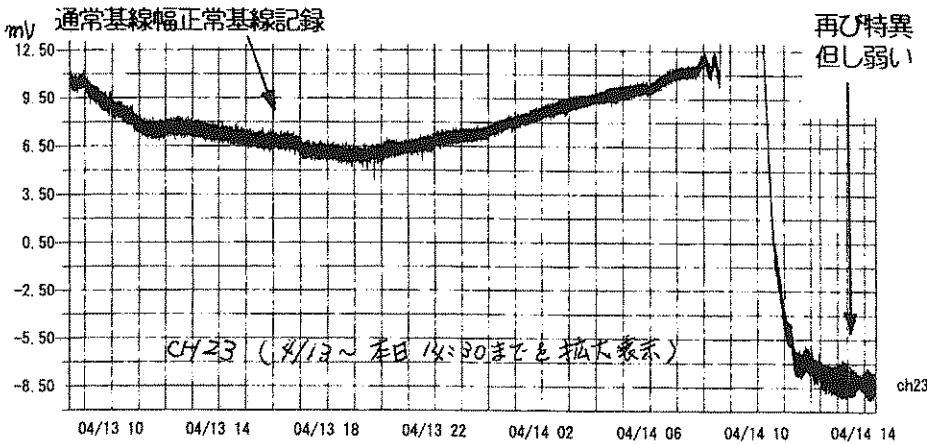
原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報
CH17の静穏化傾向に次いで CH23も静穏化傾向
顕著前兆継続観測装置=CH16・CH21のみ CH20=断続的 あと2週間で前兆終息するか?注目



CH17長時間糸状特異が継続していたが、4/8午後から静穏基線長時間記録 特異は断続的



※No.1778前兆は2008年07月より間もなく6年近くなる長期継続前兆出現の特殊前兆。現在迄に7ステージの前兆群変化がありました。各前兆群が示した時期は次の前兆群の極大にあたる関係でした。各ステージの前兆は完全終息せず次前兆群に移行しましたので、各前兆群が示した時期は地震発生推定日ではありませんし、各示された時期前に発生日とはならないことをお伝えして参りました。この様に最初の前兆群が示した時期が次ステージ前兆群の極大となるケースは今回が初めてではなく過去例があります。但し、今回の様に7段階となったケースは初めてです。地殻地震では前兆期間3年以上の過去例も有。とにかく前兆完全終息が重要です。それまでは発生の可能性は考えられません。

※第7ステージが示す時期。今回の第7ステージは極大もひとつで、今迄のステージとは異なり、最終ステージとなる可能性は否定できません。前兆が完全終息した場合は最終ステージです。

- ◆推定領域=右図斜線領域内付近の可能性
 - ◆推定規模=M7.9±0.3 (震源浅い地殻)
 - ◆推定時期=早い場合: 6月27日±
 - ◆発生時刻=午前9時±2又は午後6時±2
- C) Copyright 2014 YSBO ハヶ岳南麓天文台

PHP新書「地震予報」読者の方へのフォローページHPの続報No.62及びFAXによる地震前兆検知公開実験観測情報No.2490で報告致しましたとおり、No.1778前兆関連のハヶ岳南麓天文台のCH17が4月8日午後から通常静穏基線を長時間記録する様になりました。

左波形記録のとおり、4/8以降本日も基線が欠けている部分が糸状特異ですが、短時間で断続的特異出現となりかなり長時間通常静穏基線を記録する様になって参りました。(ch17)

これに続き、4月11日から、ハヶ岳のCH23にも通常基線が出現しました。CH23は2013年7月7日を初現として、特異状態が継続出現し、途中静穏期間もありますが、本年2月2日からは24時間振切状態の特異状態が継続して参りました。このCH23が4月11日から通常基線を記録し、翌日12日には通常基線電圧値まで静穏化しました。本朝9時前より再び特異状態となりましたが、以前の電圧値上昇振切特異状態とは異なり、左波形のとおり、弱い特異状態となっています。CH17もCH23もまだ断続的に特異状態が出現すると思われませんが、徐々にNo.1778前兆が減衰傾向に変化している可能性が示唆されますので、ご報告致します。現在の第7ステージの認識が仮に正しい場合には、今月末に前兆終息が示唆されますが、5月に入っても前兆継続の場合は実際の前兆終息を確認して第7ステージの示す時期を計算します。あと2週間で前兆終息するか観測を続け、続報させて戴きます。

